

2019年12月09日
 タカヤ株式会社
 事業開発本部 RF 事業部

HF 帯 RFID リーダライタ ファームウェア・バージョンアップのご案内
(対象機種：TR3X シリーズ/ロングレンジ 1W タイプ)

平素は、タカヤ製品をご愛用頂きまして、誠にありがとうございます。

このたび、弊社では HF 帯 RFID リーダライタ「TR3X シリーズ/ロングレンジ 1W タイプ」の機能追加のために、ファームウェアのバージョンアップを行います。詳しくは下記ご参照ください。

－ 記 －

1 対象製品およびファームウェアバージョン

製品 シリーズ名	製品名	型番	現ファームウェア バージョン	新ファームウェア バージョン
TR3X シリーズ	ロングレンジ 1W 据置型	TR3X-LDU01	1.07_0TRF02	1.08_0TRF02
		TR3X-LN01		
		TR3X-LDUN01-4		

2 適用時期

新規製造分よりランニングチェンジとなります。

対応する製造番号は以下ご参照ください。

製品 シリーズ名	製品名	型番	Ver1.080 で出荷となる 製造番号
TR3X シリーズ	ロングレンジ 1W 据置型	TR3X-LDU01	18000731 以降
		TR3X-LN01	16000195 以降
		TR3X-LDUN01-4	18000031 以降

3 ファームウェア バージョンアップ内容

	更新内容	説明
1	RF 送信信号の制御コマンドの仕様変更	RF 送信信号設定が「コマンド実行時以外常時 OFF」に設定されている場合も、ICODE SLIX シリーズ等のセキュリティ機能を使用することが可能となります。 (RF送信信号を出力したまま複数のコマンドを続けて実行できるため)
2	リーダライタ内部情報の読み取りコマンドの仕様変更	RF 送信信号設定が「コマンド実行時以外常時 OFF」に設定されている場合など、RF送信信号が停止した状態でも、送信出力値を取得することができます。

詳細につきましては、「【別紙】TR3X シリーズ/ロングレンジ 1W タイプファームウェアバージョンアップの詳細」をご参照ください。

4 ファームウェアのバージョンアップに伴う資料およびツールのアップデート

分類	資料名/ツール名	備考
資料	TR3X シリーズ 通信プロトコル説明書	(現)Ver1.05 → (新)Ver1.06
ファームウェア バージョンアップツール	最新版バージョンアップ ツール	WEB サイトから ダウンロード可能

5 バージョンアップの手段

以下のいずれかの手段になります。

①バージョンアップツールを使用してファームアップする

専用ツールを WEB サイトからダウンロードいただき、バージョンアップ作業を行ってください。

なお、ツールの使用方法を説明した資料も掲載していますのでご覧ください。

ダウンロード先

https://www.takaya.co.jp/product/rfid/hf/hf_firmware/

②センドバック頂き、弊社にてファームアップを行う（※有償対応）。

詳しくはご購入元にお問合せください。

◆本リリースに関するお問合せ先

タカヤ株式会社 事業開発本部 RF 事業部 RF 営業部 RF 営業課

TEL : 03-5449-7045

E-Mail : rfid@takaya.co.jp

以上

【別紙】TR3X シリーズ/ロングレンジ 1W タイプファームウェアバージョンアップの詳細

1 ファームウェア バージョンアップ内容

	更新内容	改良点および変更点詳細
1	RF 送信信号の制御コマンドの仕様変更	<p>RF 送信信号設定が「コマンド実行時以外常時OFF」に設定されている場合、本コマンドのパラメータを「RF送信信号の制御=ON (01h)」として実行すると、約2秒間RF送信信号を出力します。</p> <p>また、上記制御によりRF送信信号を出力している間に、RFタグ制御用コマンド(※1)を実行した場合、そのコマンド処理が終了してから約2秒間はRF送信信号の出力が継続します。</p> <p>RFタグ制御用コマンド(※1)を実行後、約2秒経過する前に次のRFタグ制御用コマンド(※1)を実行しなければ、自動的にRF送信信号は停止します。</p> <p>本仕様変更により、RF 送信信号設定が「コマンド実行時以外常時OFF」に設定されている場合も、ICODE SLIXシリーズ等のセキュリティ機能を使用することが可能となります。</p> <p>(RF送信信号を出力したまま複数のコマンドを続けて実行できるため)</p>
2	リーダライタ内部情報の読み取りコマンドの仕様変更	<p>RF送信信号が停止した状態で本コマンドを実行した場合、リーダライタが一時的にRF送信信号を出力して送信出力値を取得し、取得後に再度RF送信信号を停止します。</p> <p>本仕様変更により、RF 送信信号設定が「コマンド実行時以外常時OFF」に設定されている場合など、RF送信信号が停止した状態でも、送信出力値を取得することができます。</p>

※1: RF タグ制御用コマンドの詳細は「TR3X シリーズ通信プロトコル説明書 (Ver1.06以降)」の「3.4 RF 送信信号設定」を参照

2 ファームウェア バージョンアップ内容の詳細参照資料

	更新内容	参照資料
1	RF 送信信号の制御コマンドの仕様変更	• TR3X シリーズ通信プロトコル説明書(Ver1.06 以降) 「3.4 項 RF 送信信号設定」 「7.9.9 項 RF 送信信号の制御」
2	リーダライタ内部情報の読み取りコマンドの仕様変更	• TR3Xシリーズ通信プロトコル説明書(Ver1.06以降) 「7.9.8項 リーダライタ内部情報の読み取り」

以上